

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森

Tel: 04-7132-8800

Fax: 04-7132-8806

Email: info@konbukuroike.com

URL: <http://www.konbukuroike.com>

2025 年 9 月

第 137 号

主な予定

9 月 14 日 (日) 午前中

せっけんの街

10 月 5 日 (日)

10:00~12:00

クモの観察会

10 月 19 日 (日)

10:00~12:00

きのご観察会

10 月 19 日 (日)

柏の葉公園ウォーキングフ
ェスタ

11 月 3 日 (月)

ワークショップ

11 月 29 日 (土)

TX トリップウォーク

夜の昆虫観察会

米村 修

開催日：2025 年 7 月 26 日 (土)、新月の翌日

時間：19:00~21:00

場所：こんぶくろ池自然博物公園内

天候：晴れ

参加者：参加者：合計 30 名（保護者 14 名 小学生~高校生 16 名
53 組 103 名の応募者から抽選）、スタッフ：合計 24 名（小学生、中
学生会員各 1 名含む。千葉大生も含む）

●夜の観察会について

2019 年に初回の「夜の昆虫観察会」が開催され、今年で 7 回目と
なる毎年人気のイベントとなっています。今年も多数の応募者から抽
選で選ばれた 30 名にご参加いただきました。スタッフとして参加し
ても、「面白い！」の一言で表現したいイベントとなりました。

●観察会の様子

会員メンバーから注意事項の説明後、二つのグループに分かれてこ
んぶくろ公園内へ夜の散策を開始。開始早々、夜間の目が黒くなって
いるオオカマキリを見つけた子もいたようで、昼間とは異なる昆虫の
活動や鳴き声、ライトトラップに集まった昆虫の観察、ブラックライ
トへの反応などを体験する貴重な機会となりました。



今回特に注目の集まったのはライトトラップでした。ブラックライトで照らした白布には、沢山の昆虫が集まってきていて、親子連れがライトを片手に夢中で昆虫を探す姿が見られた。最後には、用意していた虫かごやプリンカップの容器では足りなくなるほどでしたので、昆虫好きの参加者の方々には大変盛況なイベントであることが印象付けられた瞬間でありました。

また、忘れられないシーンとなったのがセミの羽化を観察できた点でした、木の幹にとまっていたアブラゼミの幼虫がゆっくりと殻を破り、羽化を始める様子が確認されました。参加者たちはライトの明かりを頼りに静かに見守り、時間をかけて透明な羽を広げていく姿に感動の声が上がりました。特に子どもたちは「生まれたてのセミって、こんなにきれいなんだ!」と驚き、親子で写真や動画撮影と興味津々の様子でした。

まだまだ時間足りないといった雰囲気の中かで予定していた観察の時間も終わり、虫合わせで採取してきた昆虫達を全員で確認、最後は捕まえた昆虫達を公園内に放してあげて終了となりました。



●参加者の声 （アンケートより抜粋）

「夜の昆虫観察会に参加した感想をお伝えください。」

- このたびは、たくさんの昆虫を見ることができ、夜の公園を散策するというとても貴重な時間を過ごさせていただき、本当にありがとうございました。 子どもたちもさまざまな昆虫を観察したり捕まえたりと、夢中になって楽しんでおりました。ご一緒させていただいた皆様が、子どもたちにも私たち親にも温かく接してくださり、とても和やかで楽しい時間となりました。虫や植物など、普段なかなかできない観察体験ができ、親子共に本当に良い経験となりました。このような素晴らしい機会をいただき、心より感謝申し上げます。
- こんぶくろ池がこんなに豊かなところだとは知らなかった。とても楽しめた。また違う季節にも参加してみたい。



●初めて参加させて頂きましたが、主催者の方々がみなさん大変親切で 素敵な時間を過ごさせて頂き 感謝しております。息子もとても楽しく喜んでおりました。クワガタのお土産までありがとうございました。また、今度は昼間に訪れて貴重な自然を観察させてもらうつもりです。また、来年も機会がございましたら 是非参加させてもらいたいと思います。

●セミの羽化が見られて良かった

●子供がとても喜んでおりました。貴重な体験ができたことに感謝しております。本当にありがとうございました。

「ライトトラップ、糖蜜トラップ、園路沿いや草原の観察などで、特に印象に残った点があれば教えてください」

●ライトトラップ たくさんの昆虫が集まってきて蝉のオシッコもかけられてとても印象に残りました！

●ライトトラップで沢山の昆虫を観れたのが 特に印象的で楽しかったです。

●子供はライトトラップがとても楽しかったようです。

●ライトトラップ。たくさんの虫が来ていてびっくりした。

●感想

- 当日の参加者の声として「カブトムシはいないな～」との声が聞こえ、やはりカブトムシを期待しているだなと感じた。今後の活動としてカブトムシをこんぶくろ池公園で増やす為の環境づくりができたら良いと考えている。

- 糖蜜トラップについて

今回はトラップに使用する糖蜜の作成を担当させて頂きました。カルピスと焼酎を混ぜて外に放置して1か月間、発酵が進んで完成した糖蜜トラップ液の蓋を開けたところ樹液好きな昆虫が集まりそうな匂いに仕上がっており、多くの昆虫が集まることを期待してしていました。しかし、残念ながら当日の夜は蟻が多少集まっている程度であった。翌日のトラック回収時でも、さらに沢山の蟻がたかっていたのと、キマワリとヤマトゴキブリがいるのを発見できただけで、トラップの仕掛け方や糖蜜の作り方は、試行錯誤のうえで改善していきたい。



●こんぶくろ池自然博物公園 「夜の昆虫観察会」 2025 年記録

動物界 節足動物門 昆虫綱		アミメカゲロウ目	
チョウ目		カマキリモドキ科	
タテハチョウ科	クロコノマチョウ (幼虫)	ヒメカマキリモドキ	
ツトガ科	シロモンノメイガ	カマキリモドキの仲間	
スズメガ科	スズメガの仲間 (幼虫)	クサカゲロウ科	
カレハガ科	タケカレハ (幼虫)	クサカゲロウ	
シャクガ科	シャクガの仲間 (幼虫)	ウスバカゲロウ科	
ガの仲間		ウスバカゲロウ	
カマキリ目		コウチュウ目	
カマキリ科	オオカマキリ	オサムシ科	
バッタ目		ゴミムシの仲間	
バッタ科	イナゴ	コガネムシ科	コフキコガネ
	ツチイナゴ		マメコガネ
	コバネイナゴ		アオドウガネ
	ショウリョウバッタ		カナブン
	ショウリョウバッタモドキ		シロテンハナムグリ
オンブバッタ科	オンブバッタ	クワガタムシ科	
コオロギ科	カマドコオロギ	コメツキムシ科	
キリギリス科	ウマオイのなかま	ゾウムシ科	
	ハヤシノウマオイ	カミキリムシ科	
	ヤブキリ	キマダラカミキリ	
ナナフシ目		ハムシ科	
ナナフシ科	ナナフシモドキ	イチモンジカメノコハムシ	
ハサミムシ目		ハチ目	
ハサミムシ科	ハサミムシの仲間	アリ科	
カメムシ目		アリの仲間	
セミ科	アブラゼミ	ハエ目	
アオバハゴロモ科	ニイニイゼミ	ガガンボのなかま	
オオホシカメムシ科	アオバハゴロモ	ゴキブリ目	
カメムシ科	オオホシカメムシ	ゴキブリ科	
トンボ目	チャバネアオカメムシ	ヤマトゴキブリ	
	クサギカメムシ	モリチャバネゴキブリ	
アオイトトンボ科	イトトンボの仲間	動物界 節足動物門 クモガタ綱	
トンボ科	シオカラトンボ	クモ目	
		コガネグモ科	
		オオトリノフンダマシ	
		キシダグモ科	
		ハシリグモの仲間	
		ザトウムシ目	
		ザトウムシの仲間	

3月2日（日）こんぶくろ池保全活動報告会から
コバギボウシとキンランの開花株数調査

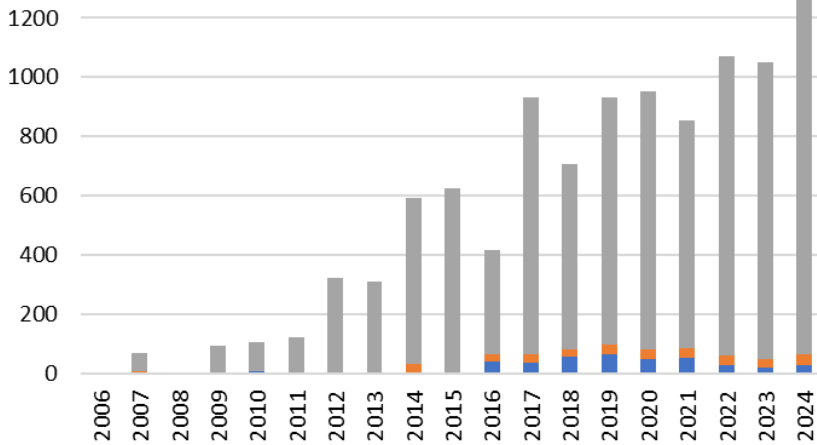
- 1 はじめに
- 市民による園路の拡張や新規設置が開始された 2006 年に開花株数調査も開始し継続している。コバギボウシとキンランについては、「千葉学ブックレット 都市と自然環境-4 市民の力で湧水自然を守る・柏市こんぶくろ池物語 2011 年初版」の中に書かれた「完全に林冠が閉鎖した暗い林内ではなく林冠のところどころにすき間（ギャップ）があるやや明るい光環境が、コバギボウシやキンランの生育に適しておりそれ以外の植物の多様性をも高めることを意味しています」との研究成果に基づき、コバギボウシを湿性環境、キンランをコナラの優占する落葉広葉樹二次林の生物多様性の豊かさの指標として経年変化を観察している。
- 2 方法
- 北地区（こんぶくろ池自然博物公園のうち 1 号近隣、コリドーを含まないエリア）を弁天湿地、こんぶくろ湿地、その他の 3 地区に分け開花株数を数えた。

調査日：キンラン 2024 年 4 月 28 日（計 15 名）、コバギボウシ 2024 年 8 月 3 日（計 6 名）

3 結果

3.1 キンラン：結果を図1に示す。

図1 キンラン開花株数



各調査エリアで開花株数が増加した。弁天水路沿いは来園者が間近にキンランを見ることができ「キンラン街道」の異名がある。ここでは2019年をピークに昨年まで開花株数の減少が続いたが今年度は7株増加し少し持ち直した。

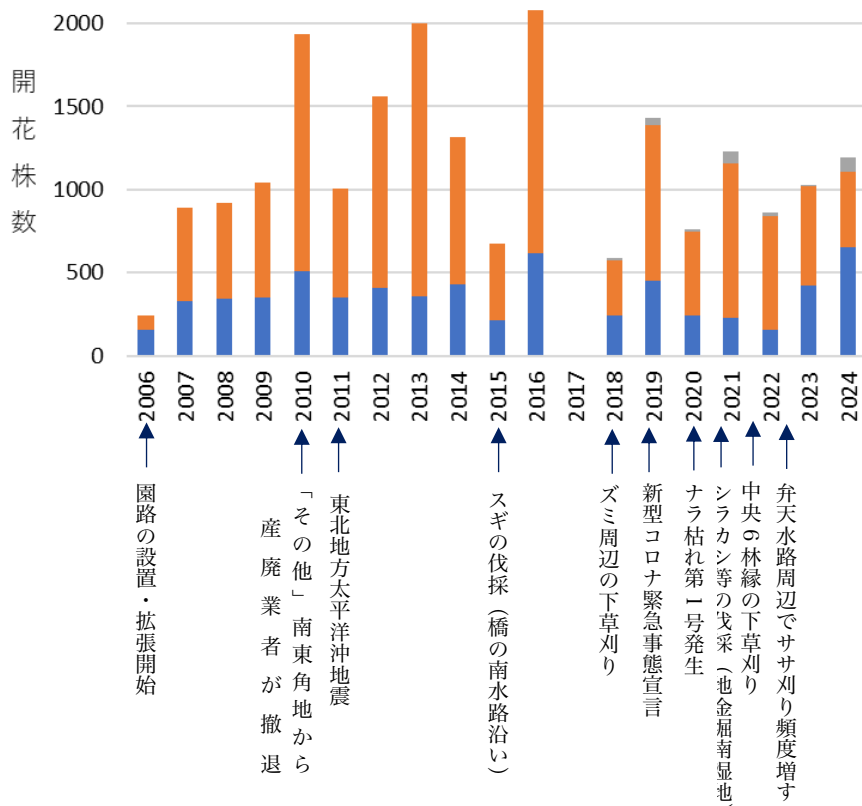
「その他」での増加の要因として、2020年のナラ枯れ発生以降2023年度までに対応策として約65本が伐採され、また倒木もあり林内にギャップが生じたことが影響したかもしれない。また、エリア内南東で2010年頃に産廃業者が撤退して以来、跡地で開花株数が増

加し安定している。

しかし猛暑を更新した2024年夏はアズマネザサの繁茂が著しく、ナラ枯れ被害木伐採跡や林床で蘖化が進んだ。2025年度の開花時期を前に林床の整備を進めている。

3.2 コバギボウシ：結果を図2に示す。

図2 コバギボウシ開花株数



弁天湿地で開花株数が増加した。2022年から弁天水路両岸でササ刈りの頻度を上げている。中央8の林内でも開花株数が増加し、今年度は82株を確認した。

地金堀の湿地で開花株数が減少している。一方、地金堀の北側岸でカサスゲが増加傾向にある。

担当者 上田 真佐江 (文責)
橋本谷 弘司

■ 弁天湿地：水路両岸（弁天池～橋）
■ こんぶくろ湿地：地金堀両岸の湿地
■ その他：上記以外の北地区

令和七年夏季こんぶくろ池句会・歌会作品集

世話人 松田 和生

俳句の部

その腹に何を入れるか糸とんぼ
 塀沿いに続く十葉八重一つ
 タチアオイ梅雨が明けたか全開花
 野良仕事終えて味わう冷や奴
 夏休み子らの声無し蝉時雨
 今朝もまた団地揺るがす蝉しぐれ
 空梅雨やカラカラ喉に缶ビール
 万緑に野ウサギ落とすやチョコボール
 線香の煙たなびく盂蘭盆会
 夕暮れに網戸を通して盆踊り
 御射鹿池夏の緑にしろま想う
 ただ一瞬潮の香残るや台風一過
 世に抗し覚めていろよと終戦日
 真夏日にこんぶくろ池の干上がりて

あおはもゆ
 あおはもゆ
 安曇野人
 安曇野人
 安曇野人
 安曇野人
 笑昇
 笑昇
 中川 望
 中川 望
 秀夫
 まさえ
 吉川億空
 わらしべ

短歌の部

全身に虫よけスプレーかけおれど
 どこ吹く風と蚊群の来襲
 猛暑にもめげることなく集まりて
 餌をついばむムクドリあっぱれ
 安らぎを求めて歩む森の道
 心にしみるヒグラシの声
 ランドセル笑顔で選ぶ親子連れ
 夢と希望に胸ふくらませ
 おむすびをほおぼり眺める田園の
 稲穂はもうすぐ黄金色
 草刈れば家主の蜥蜴顔を出す
 遊歩道での朝の挨拶
 虫の音に惹かれて出ればお隣も
 風も来ているしばし納涼
 雨上がりの自然の森をゆつたりと
 歩んでいけば馴染みの野兎

Q太郎
 中川 望
 中川 望
 中川 望
 秀夫
 P助
 まさえ
 わらしべ

伯耆田氏ご逝去の報に接し

「哀悼の意を込めて」

たくましき伯兄反るやズミ香立つ
 弥生には自然の森に木霊する
 ホーホケキョ（伯耆田）なる春の挨拶
 新盆や額掛けベンチ整理棚
 造りし「伯耆田」しみじみ偲ぶ

あるひと
 Q太郎
 ノー・ボール

あとがき

今年の夏は歴史的な暑さでこんぶくろ池もついに干上がってしまいました。それでも自然の森は元気に来園する方々を大歓迎です。

このような森の仲間であった伯耆田氏が逝去されたことは誠に残念ですが、句会・歌会に新たに一名の方が加わり、延べ十名の方々から作者それぞれの持ち味を生かしたオリジナリティとリアリティが光る俳句十五句、短歌十首が寄せられました。

自分はそんな柄じゃないと思っている読者がおられるかもしれませんが、実は作者の皆さんは、全員が全くの素人から始めています。未投稿の読者のみなさんもここで思い切って俳句・短歌の道へ一歩踏みだしてみませんか。きっと新たな世界が開かれることでしょう。

今回は秋季（令和7年9月～令和7年11月）になりますが、思い立ったが吉日、事務所前の投稿箱の他、世話人あてのメールやメモでも結構ですので投稿して下さい。お待ちしております。

新入会員紹介

和田^{りょうほ} 椋甫さん

参加動機：森の管理を中心に、植生調査や観察会など幅広い活動に惹かれました。積極的に活動したいと思います。

趣味・好きなこと：野鳥観察、読書、歩き旅

貢献できそうなこと：公園整備、調査、事務、情報処理・パソコン、広報

取り組んでみたいこと・分野：日々の活動を通じて、より広く深い知識を身につけたい。広く活動を広めていきたい。

ひとこと：より良い活動に貢献できればと思います。

